

教職員の資質向上に係る特配（C T特配）活用推進事業報告書

みどり市立大間々東中学校

1 取組の概要

(1) 教員の資質能力向上に係る特配（C T特配）の指名

本校の研修主任は、昨年度も研修主任として、特別の教科「道徳」の完全実施に向けて、研修企画委員メンバーをまとめ、本校職員の意識向上と特別の教科「道徳」のスムーズな導入を行った。

今年度は、研修主任を教員の資質能力向上に係る特配（C T特配）教員に指名し、研修企画委員メンバーの教務主任、学力向上コーディネーターと連携を図り、校内研修の充実に向けて取り組むこととした。

C T特配の授業時数は、17.5時間（端数は、ローテーション道徳等による）とした。なお、C T特配教員は、人権主任も兼ねている。

(2) 教員の資質能力向上に係る校内研修の実践

今年度は、本校の研修を指導力向上研修として位置づけ、「授業改善研修」と「資質向上研修」の二つの観点から研修を進めることにした。研修主任（C T特配）は、その計画立案から運営までを中心として行った。

① 研修計画（全体計画や企画委員会の提案研修主任（C T特配）が作成）

月	日	授業改善研修	資質向上研修
4	5	全体：「道徳の授業について」（道徳推進）	全体：「アレルギーをもつ生徒への対応」（養護教諭）
	11	企画：研修主題の決定、組織作り1年間の研修の方向性、スケジュール、研修計画書についての検討 全体：1年間の研修の方向性、スケジュール、研修計画書の共通理解	全体：「支援が必要な生徒の対応」（特別支援担当） 全体：「生徒指導並びに生徒理解について」（生徒指導主事・教育相談主任）
	15	班別：教科ミーティング （学力向上策、前期訪問について他）	全体：「人権教育・常時指導の共通理解について」（人権主任（C T特配））
	17	企画：前期指導主事訪問について企画：朝学習の取組、補習等について （C T特配）	全体：「家庭訪問に向けて」（校長・教頭・各学年主任）
5	8	企画：授業参観のポイント、分科会の進め方について 地区別人権に向けて（授業者の確認等）	全体：「はばプラの効果的な活用について」（研修主任（C T特配））
	15	企画：分科会の進め方、資料の確認等（前期訪問に向けて）	全体：「人権教育充実指針について」（人権主任（C T特配））
	20	全体：指導案の形式、前期指導主事訪問について 班（教科、学年等）：1学期の授業実践について *教科についての班別ミーティングは随時入れる	希望：部活動の運営について（教頭）
	27	全体：授業参観のポイント、分科会の進め方について	全体：成績処理の仕方（教務主任）
29	企画：通知表所見についてなど、資質向上について （C T特配）		
6	6	前期指導主事訪問（研修の説明、一般授業、授業研究会）	全体：求められる人物像について （キャリア研修資料より）（研修主任（C T特配））
	10	企画：前期指導主事訪問の反省、今後に向けて	全体：「通知表の所見の書き方」（管理職）
	12	全体：今後に向けて 全体：公開授業の教科・教材の決定	
	26	企画：後期指導主事訪問日程、資質向上研修について 企画：道徳の所見について、夏休み補習について （C T特配）	
7	3	企画：資質向上について、人権教育についての資料確認	全体：K-13法について（養護教諭）
	8	全体：1学期の授業実践についての共有・今後に向けて 人権教育について 班（教科）：1学期の実践についての振り返り	：熱中症対応について（養護教諭） 希望：「本校のいじめ対策についての活動」（生徒指導主事、生徒会担当）
	11	企画：2学期に向けての準備、一人1授業の実施方法について等	個：「地区別人権授業に向けて」（担当者と打ち合わせなど）
	17	企画：2学期の授業実践の視点について （C T特配）	全体：「SNSの危険性について」 →夏季休業前の指導に向けて（生徒指導） 希望：部活動運営（新チームの作り方） （担当：研修主任（C T特配）・教頭・教務他） 全体：服務規律について（教頭）
8	28	個・班 地区別人権教育研究協議会に向けて 企画：2学期の授業実践について （C T特配）	班：第1回Q-Uの分析等 個：「地区別人権授業に向けて」（指導案作成、資料分析）」
9	9	全体：地区別人権について、授業改善について	希望：「行事に向けての取組（学級経営）」
	11	企画：代表授業における手立てについて 個・班：一人1授業	全体：「いじめ防止対策推進法」について （研究所の資料を利用）（生徒指導主事）
	18	企画：地区別人権に向けて	全体：「SNSの危険性について」

	25	企画：後期指導主事訪問に向けて (CT特配)	→生徒指導の現状より(生徒指導主事、校長)
10	2	企画：代表授業における手立ての再確認	希望：「効果的な三者面談」
	7	全体：後期指導主事訪問・地区別人権に向けて	希望：「体育大会を終えての学級経営」
	18	後期指導主事訪問(研修の進捗状況説明、代表授業、 授業研究会)	全体：「学テ分析結果とその対策について」 (担当：研修主任(CT特配)・学力向上CO)
	23	企画：後期指導訪問の反省、今後に向けて	全体：道徳の授業作りについて(教務主任)
	24	班(学年)：地区別人権プレ授業(23～25)	個：地区別人権に向けてプレ授業及びプレゼン資料 の作成
	25	個・班：一人1授業 (CT特配)	学年、研修企画等：地区別人権プレに向けての授 業検討
11	5	全体：本校の人権の取組についての確認	全体：「人権集中学習について」 (人権主任(CT特配))
	6	企画：地区別人権に向けて	全体：地区別人権全体会発表についての報告及び 情報共有(人権主任(CT特配))
	13	企画：指導案最終確認、全体発表資料の確認	全体、学年：「三者面談にむけて」 (校長、学年主任)
	27	企画：資質向上研修の検討、地区別人権に向けての確認	班(学年)：地区別人権プレ授業・最終確認等
	28	全体：地区別人権教育研究協議会(研究授業、授業研究会) 個・班：一人1授業 (CT特配)	
12	4	企画：2学期の振り返りについて	全体：児童虐待防止法について (研究所の資料を利用)(教育相談部)
	9	班：2学期の実践についての振り返り(教科ミーティング)	
	11	全体：2学期の授業実践についての発表・共有	班：第2回Q-Uの分析等
	23	企画：2学期の実践振り返り、まとめ 今年度のまとめにむけて 企画：来年度に向けて 個・班：一人1授業 (CT特配)	
1	8	企画：3学期の実践について 来年度の課題を共有する方法についての協議	全体：市学力状況調査の分析の仕方 (学力向上CD)
	14	全体：1年間で共有した内容についてのまとめ 学校課題についての話し合い	学習の手引きについて(学力向上CD)
	15	企画：全体会の確認事項について	
	22	企画：取組の成果をまとめる	
	29	企画：前回の企画を受けて (CT特配)	
2	5	企画：学校課題の共有、課題とその原因の分析	全体：年間計画の作成
	10	全体：道徳の評価について	安全・危機管理について(安全主任)
	12	学校課題の共有、課題とその原因の分析 企画：来年度の研修について (CT特配)	人権課題について(人権主任(CT特配)) 希望：「要録の書き方」(教務主任)
3	4	企画：目指す子どもの姿と手立ての焦点化について	希望：「新年度へ向けての準備」(教務主任)
	9	全体：目指す子どもの姿と手立てについて検討 全体：市の学力調査分析を受けて (CT特配)	

② 実践(研修の成果と課題)

<授業改善研修>

実践内容①：メンター制を取り入れた教科ミーティング

教科ミーティングの時間を定期的で開催し授業力の向上を図る



国語部会



数学部会



美術・音楽部会

教科ミーティングの時間を各部会ごとに開催し、授業の手立ての工夫や、学習内容の提示の仕方、振り返りの方法等の情報交換を行う。また、生徒の学習の評価についての共通理解なども図った。

研修主任(CT特配)は、教科ミーティングの旗振り役として、場の設定や話合いの内容を提示して、ミーティングの推進を図った。

成果と課題： 随時ミーティングの形をとったことで、必要に応じて情報交換を行うことができた。しかし、単独の教科等では意図的に機会を設けたり、拡大の教科部会という形で情報交換の場を設定する必要があると感じる。教科ミーティング制を継続しつつ、部会の持ち方等も検討していく必要がある。

実践内容②：道徳の授業作りについての研修 模擬授業等やローテーション道徳の利点を生かした研修



昨年度の研修を元にして実践を進めている。ローテーションの利点を生かし、それぞれの授業を参観して個々の授業力向上を図っている。また、模擬授業等を行うことで、めあてに迫るための発問の仕方や資料提示の仕方、振り返りの方法等を検討している。

研修主任(CT特配)と道徳教育推進教師、道徳主任(ともに研修企画委員)が中心となって、道徳教育の充実を図った。

成果と課題：道徳については、昨年度の研修の成果を活かしつつ、今年度の実践につなげることができた。今後も、互いの実践内容を共有することで、授業力の向上につなげていく。研修のグループの組み方については、時々構成メンバーを変えることで、新たな視点をもたらすような工夫をしていく必要がある。

実践内容③：一人1授業3参観

- 授業公開シートをもとに授業を組み立て、実践内容の検討会を実施する。

1人1授業公開シート

氏名	氏名	日 時	10月3日	4時5分	5分
授業科目	3年1組 2組	1	道徳(道徳)	教室	
教科・(单元・題材)	本道徳とイオン				
めあて	前時に行った実験現象の仕組みを理解する。				
振り返り・ の工夫/方法	個別と小グループでナトリウム水溶液の中和実験の様子をイオン式 で考える。				
授業のこぼれポイント	個別に少しずつ中和化ナトリウム水溶液を混ぜていたときの様子をイオン式を使 って表現で再確認。中和の元となる水素イオンの数とアルカリ性の元となる水酸化 物イオンの数に等置させ、理解を促す。				

参観授業感想シート 氏名 木村 実

☆めあてに対して
 説明は先織である。黒板の左上に板書してあり、
 説明は先織である。黒板の左上に板書してあり、

☆アピールポイントに対して(学立て、工夫等に対して)
 模擬実験をして、板書で板書を板書に対して、板書
 する。教師実験も、みんな集中して、見ている。

☆振り返りについて
 一発指導での振り返りで、板書で図をみんなで見
 ました。
 実験の様子も、一人一人に考えて、全員で
 振り返り、みんなも見ました。日々の式文と生徒とかが
 板書で、みんな見ている様子も、授業に生かすのが、みんな見

授業者はめあて、振り返りの工夫を記入する。特に授業のアピールポイントを参観者に提示する。

参観者は、上のシートを元にして、めあて、アピールポイント、振り返りの3つの視点でよかった点、改善点、参考になった点などを記入する。

ポイントを絞った公開シートを作成することで、参観者の視点が明確になり、より充実した検討会が行えるのではないかと考えた。また、気軽にお互いの授業を参観できるようにしたいと考えた。同じ教科だけでなく教科をこえた授業を参観することで自分自身の授業構想のヒントを得られるとよいと考え、今年度はこの形式を導入した。

一人1授業3参観では、CT特配教員は、教科の授業を2授業、期間中のすべての道徳の授業を公開した。また、若手教員の公開授業では、ほとんどの授業を参観して、参観シート並びに口頭での指導助言を行った。

成果と課題：参観シートの導入により、気軽にお互いの授業を参観する雰囲気ができ、授業者にとっても負担が軽減された。参観の視点を絞ったことにより、助言や意見交換、質問もしやすかった。しかし、公開時期等を分散させる工夫をしないとなかなかお互いの空き時間で参観することができないため、今後検討していく必要がある。

<資質向上研修>



座談会形式、少人数制をとり意見交換を忌憚なく行えるようにした。



研修主任（CT特配）と教頭による2学期からの学級経営・部活動経営についての経営方針や生徒への言葉かけなどの提案、若手教職員からの課題や質問への話し合いを実施している様子。

資質向上研修を定期的実施した。1学期は、部活動の運営について（新年度のスタート、最後の総体に向けて、新チームの作り方など）、及び通知表の所見の書き方等を実施した。夏季休業中は、K13法を行い2学期の学級経営等の検討を学年部会で行った。学年をこえたチームを2つ作り、メンター制を取り入れて担任団で行事に向けた学級経営のあり方等を話し合った。時間は30分程度とした。この形式にすることで日常的に教職員間の情報交換につながるとよいと考えた。また、全体会の後等に、研究所の資質向上研修班の取組も積極的に取り入れた。

資質向上研修については、研修主任(CT特配)自ら資質向上に取り組むとともに、経験豊富な教職員を活用しての研修等の企画運営などのプロデュースも行った。

成果と課題（来年度への提言含む）○成果●課題

- 研修テーマをタイムリーなものに設定できたことや小グループでミーティング形式をとったことで、意見も出しやすく、有益な情報交換をすることができ、実践につなげることができた。
- メンター制がうまく機能していた。また、時間設定も適当であった。
- 昨年度、今年度と管理職や中堅教諭がテーマを設定し、取り組んだ形になったが、若手の視点からで実施する形式を取り入れられるとよい。
- 日頃から疑問に思っていることなどをあらかじめ出し合っておき、それについて随時意見交換ができるようにしておくことよい。

*学校課題となるようなこと、必要感を感じていることを取り上げていくことが効果的であると感じる。また、研修の持ち方については、ベテラン同士、中堅同士、若手同士などの研修をもつなど、テーマに応じたグループ分けをすることも今後実施していくのもよいと思われる。

2 成果と課題

(1) 成果

研修主任をCT特配として指名したことにより、校内研修の取組（「授業改善研修」と「資質向上研修」）すべてが、教職員の資質能力向上に向けての取組となった。教職員全員がねらいと振り返りを意識した授業の実践に取り組むことができた。また、資質向上研修では、日常の学級経営・部活経営や授業中の細やかな配慮等など、若手教職員が今必要とする内容を取り上げて、すぐに役立つ実践として取り組むことができた。

(2) 課題

生徒の実態に対する教職員の指導上の課題に目を向けて、研修主任（CT特配）が校内研修を推進してきた。教職員も研修には、熱心に取り組んでいた。しかし、日常の授業の中で、教職員の成長のためには焦らず一歩一歩着実に進めていくことが必要であると感じた。